

## 横浜スポーツパートナーズについて

### 1 趣旨

横浜市には、野球（NPB）、サッカー（Jリーグ）、バスケットボール（Bリーグ）のプロリーグに所属する4チームをはじめ、ソフトボール、フットサルなど11のトップスポーツチームがあり、スポーツ施策を推進する上で大きな強みとなっています。

この強みを生かし、横浜市のスポーツ振興施策をはじめとした行政施策について、連携・協働して取り組むことを目的に、今年10月1日（木）に「横浜スポーツパートナーズ」を創設しました。

横浜市中期4か年計画並びに横浜市スポーツ推進計画の基本目標の達成に向けて、各チームの特色を活かした連携事業を展開し、市民スポーツの振興及び地域経済の活性化等に取り組んでいきます。

### 2 概要

#### (1) 加盟チーム（11チーム）

チーム	種目	備考
横浜 DeNA ベイスターズ	野球	横浜スポーツ パートナーズ 発足前から連携・ 協働体制あり
横浜 F・マリノス	男子サッカー	
横浜 FC	男子サッカー	
横浜ビー・コルセアーズ	男子バスケ	
日体大 FIELDS 横浜	女子サッカー	新規
ニッパツ横浜 FC シーガルズ	女子サッカー	
Y.S.C.C.	フットサル	
Y.S.C.C.	男子サッカー	
横浜 GRITS	アイスホッケー	
日立サンディーバ	女子ソフトボール	
YOKOHAMA TKM	女子ラグビー	



(2) 要件

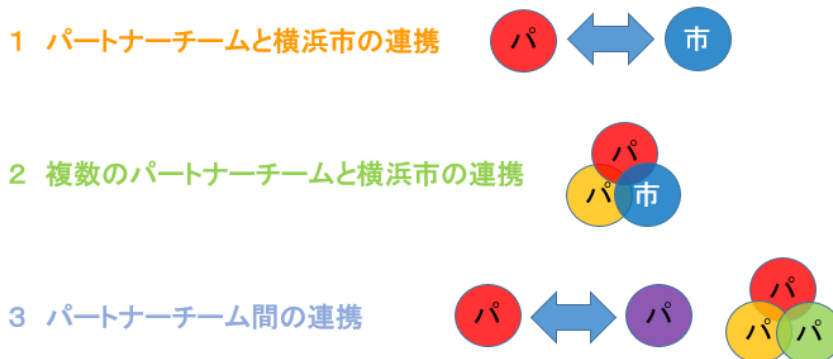
横浜市を本拠地とし、次のいずれかの要件を満たすスポーツチーム

- ア プロスポーツチーム
- イ 一般社団法人日本トップリーグ連携機構に加盟するスポーツチーム
- ウ イに準じ、横浜市が本制度の対象として認めるスポーツチーム

(3) 期待される効果

- ア **効果的な広報活動**によるトップスポーツの**観戦機会の向上、競技の普及・啓発**
- イ **子どもたちを対象としたスポーツ教室、競技体験会及びその他の方法による、子ども世代の体力向上**
- ウ **各チームの特性を活かした取組による、女性や働き世代等のスポーツ実施率の向上**
- エ **各チームの競技活動等**を通じた、**地域経済の活性化**

<連携イメージ>



《参考1》これまで取り組んできた連携・協働事業

- ・市民参加型スポーツイベント等におけるスポーツ教室や競技体験会の開催
- ・市民招待事業などによる市民の皆様への試合観戦機会の創出 等

《参考2》関連する本市の計画

1 横浜市中期4か年計画（抜粋）

地元プロスポーツチーム等との連携を通じ、**市民が一流のプレーを観戦する機会**や、**夢や感動を共有する機会を創出**するとともに、**集客促進や地域経済活性化の促進**。

2 横浜市スポーツ推進計画の基本目標

- 【目標1】 子どもの体力を横浜市の昭和60年頃の体力水準に回復
- 【目標2】 成人の週1回以上のスポーツ実施率65%程度、週3回以上を30%程度  
スポーツボランティアの実施割合10%以上
- 【目標3】 65歳以上の週1回以上のスポーツ実施率70%程度  
障害者（成人）の週1回以上のスポーツ実施率40%程度
- 【目標4】 プロスポーツを間近で観戦した市民の割合が50%以上

## キャノンイーグルス ホストエリア横浜市決定について

### 1 概要

2022年（令和4年）1月に新たに開幕予定のラグビー新リーグにおいて、キャノンイーグルスが横浜市をホストエリアとすることになりました。

キャノンイーグルスが横浜市をホストエリアにすることで、日産スタジアムやニッパツ三ツ沢球技場など市内スタジアムでトップレベルの試合観戦の機会が増えるほか、学校訪問やラグビー体験会など、ラグビーの普及活動やスポーツ振興にもご協力いただける予定です。

については、ラグビーワールドカップ2019™の決勝戦が開催された記念の日でもある11月2日（月）に、選手やチーム関係者をお招きし、ホストエリア発表イベントを市庁舎にて開催しました。

### 2 キャノンイーグルスについて

#### (1) チーム紹介

ジャパンラグビートップリーグに所属。ラグビーワールドカップ2019に活躍した田村優選手や田中史朗選手を始め、代表クラスの選手が多数活躍しています。

また、ラグビーの普及活動や、スポーツを通じた社会貢献活動にも積極的に取り組んでいます。

#### (2) 沿革

1980年 チーム（キャノンラグビーフットボールクラブ）創設

2010年 チーム愛称を「キャノンイーグルス」に決定

2012年 ジャパンラグビートップリーグ昇格

※ジャパンラグビートップリーグ最高成績：6位（2015シーズン）



### 3 当日の様子

